

# 北海道指導林家認定者の紹介

むかい せいごう  
～令和元年に認定された向井 正剛さん～

令和2年3月に北海道知事より「北海道指導林家」に認定された「向井 正剛(むかい せいごう)」さんを紹介いたします。

向井さんは、当別町で林業事業体「株式会社 シンカン」(森林のシン・環境のカン)を経営し、造林・保育事業のほか、環境省認定の鳥獣捕獲等事業体であることから、鳥獣被害防止対策アドバイザーや有害鳥獣駆除、山林作業時のハンター護衛業務等を行っています。



(認定証伝達式)

所有山林は、当別町に約58haを所有し、その内8割が天然林広葉樹で、森林生態系の保全を考え非皆伐施業を指向、多様な樹種からなる多段林構成の林分造成を目指し、きめ細かな施業を実践しています。

また、平成30年度には、「都市近郊におけるエゾシカ捕獲」、「エゾシカの有効利活用」をテーマに、銃器を使用しない捕獲計画の立案と捕獲作業を道総研環境科学研究センターのアドバイスを受け実施しました。

去る、令和2年3月23日(月)石狩森林室の会議室において、当別町経済部エネルギー推進室長など立会のもと森林室長から認定証の交付を受け、当管内13人目の北海道指導林家が誕生しました。

向井指導林家におかれましては、バランスのとれた森林生態系の保全や捕獲したエゾシカの有効利活用など大いに活躍されることを期待しています。



## ご存じですか！

### エゾシカの角こすりは、9月～10月に発生！

《エゾシカの角は一年に一度生え替わります》



冬、食料不足の折、角に栄養が取られないよう自然に抜け落ちます。

そして、4月から5月頃、角に血が通っている「袋角」が生えてきます。

9月から10月頃、角への血流が止まり、袋が破れて枯角が出てきます。

この頃、メスを巡り、オスが角を突き合わせ戦います。

角こすりは、戦いで有利に立てるよう、袋の部分を早く取り、角を尖らせるためにしていると考えられています。

\*被害を受けやすい樹種は、「トドマツ、カラマツ」で

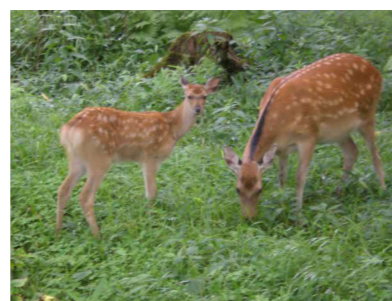
胸高直径10～20cmに被害が多く発生しています。

\*角こすりを防ぐ方法の一つは、「枝打ちをしない事」です。

枝張りにより林内へのエゾシカの侵入を防ぎます。



(角こすり被害木)



(エゾシカの親子)

HP公開中：<http://www.ishikari.pref.hokkaido.lg.jp/sr/srs/densyobato.htm>

もりの伝書鳩

検索

石狩振興局森林室

普及課情報誌

令和2年秋号

発行 石狩振興局森林室普及課

当別町栄町192-7

TEL:0133-22-2161

FAX:0133-22-0551



## 令和2年秋号の発行にあたって

この原稿を書いている8月下旬の段階では、新型コロナウイルス感染症の終息の見通しは全く立っていません。それどころか、東京をはじめ、全国各地で「第2波」の恐れがあるかもしれないといった感染者数の増加がみられるようになっていきます。

この情報誌が皆様のお手元に届いている頃には、感染症の拡大は落ち着いているでしょうか？ そうであれば良いのですが。

さて、新型コロナウイルスの感染拡大は、健康面への影響はもちろん、日本全国、いや全世界にこれまで与えた経済面の影響は莫大なものとなっています。

そうした影響は、当然のこと木材産業にも及んでおり、木材を産出する伐木現場も休止状態です。

住宅建築の建て控えや、輸出関連の落ち込みに関わる梱包材の需要の低下など感染拡大が発生する前までは経済活動の中に関わってきた林業・木材産業の量的な仕事(活動)が当たり前ではなくなっている、そうした現実が起こっています。

まだ、それほど悲観する事態ではありませんが、今後、社会経済がどのように展開していくかを注意深く見守る必要はありそうです。

そうした中で、森林組合をはじめとした林業事業体の皆さんは、コロナだからと言って手を休める事の出来ない保育(下刈り、除伐など)作業などに懸命に取り組んでくれています。

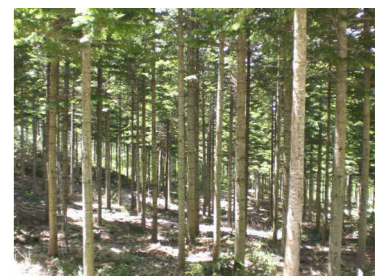
コロナの先行きはまだ見通せませんが、森林組合が継続的に、的確に作業してくれている皆様の森林には明るい未来が待っているはずです。

さて、リニューアルで再発行した情報誌「もりの伝書鳩」令和2年秋号では、「森林保護」の分野からエゾヤチネズミによる食害対策とエゾシカの角こすり時期に関する注意情報を、「森林機能保全」の分野から保安林に関する情報、「木材利用」の分野からCLT建築に関する各情報をお届けします。

毎号、普及課職員がそれぞれ専門分野毎に担当している情報を書いています。皆様に少しでも為になって、少しでも楽しんでいただける情報誌にしていきたいと思っています。



ハーベスタによる間伐



適正に管理されたトドマツ



カラマツ皆伐事業素材生産





## 庭木や植樹木の管理方法について



筆者の自宅が石狩市樽川にあるのですが、2年前の雪解け後、自宅前に植えてあるライラックの根元がエゾヤチネズミに食害されているのを発見、近所も同様の被害が発生しました。

エゾヤチネズミの生息地となる防風林が自宅から500mぐらい離れており、油断していたのが原因でした。

早速、お金をかけず簡単に食害を防ぐ方法を実践したので、その内容を紹介します。

### 【ペットボトルで食害を防ぐ方法】

- ①1.5～2ℓのペットボトルの上下をカッター等で切断し筒状にします。
- ②筒状のままでは、幹を被えないので上から下にかけて切ります。
- ③この状態にすれば、幹を被えますので筒状のペットボトルを開き幹を被います(太い場合は2～3本分使用)。
- ④下側を地面につけ、ひもで軽くしばり完了です。
- ⑤桜など記念植樹した樹木は、ペットボトルをつなぎ保護面を高くした方が有効です。



(ペットボトルを使用)



(市販されている防護ネット)

また、色々な食害防止ネットが市販されていますので、大切な樹木をエゾヤチネズミから守りましょう。



## 保安林のおはなし



森林は古くから木材の供給源として利用されてきました。しかし、無計画な伐採を行うと、森林が荒廃し、森林の持つ機能が発揮できなくなります。

そのため、森林の持つ水源かん養、国土保全、環境保全などの機能(「公益的機能」)の発揮について、特に重要な森林を「保安林」として指定し、伐採を制限したり森林以外への転用を規制し、森林の機能が失われないようにしています。

森林を保護・管理するという考えは、7世紀に風致保護のため、今の奈良県の山々の森林を禁伐とした例が日本書紀に記述されているそうです。

木材の需要が増大した江戸時代には、「水持山」・「留山」等と呼ばれた森林が水源のかん養や土砂流出防止を目的に保護されていましたが、幕末から明治時代にかけて過剰な伐採が行われた結果、森林が荒廃して災害が増加したことから、明治30年、森林法が制定され、保安林制度が創設されました。



(水をはぐくむ水源かん養保安林)

保安林には、その目的によって色々な種類と役割があり、全部で17種類あります。

また、保安林に指定されると必要最小限度守らなければならない取扱方法が定められています。

所有山林が、保安林に指定されている方で皆伐・再造林、択伐、間伐の実施を希望される場合は、手続きが必要になりますので、事前に地元森林組合に相談をお願いします。



## CLT建築と道民の森神居尻山避難小屋



### 【CLTって何?】

CLTという言葉を目にしたことがありますか?CLT(Cross Laminated Timber 直交集成板)とは、コンクリートパネルと同等の強度があり、コンクリートや鉄より断熱性に優れ、従来の木質材料に比べて遮音性等も良好など優れた木質材料のことです。

図のとおり、板材の繊維方向が直角に交わるように重ねて貼り合わせたパネル材として製造されています。

木材は、繊維軸の方向(縦方向)に強い性質を持ち、その方向が直角になるように積層・接着しているため、CLTは高い強度を持っています。

また、木材は水分の吸収・放出により収縮しますが、繊維軸方向の変化は極わずかですので、その点でも直角に接着されているCLTは寸法安定性にも優れているといえます。

### 【道民の森にCLTによる避難小屋が完成!】

今年7月、当別町と月形町にまたがる「道民の森」において、CLTを使用した避難小屋が完成しました。

道民の森にそびえる神居尻山(標高947m アイヌ語で「神の山」を意味する)の「神居尻山避難小屋」が平成30年9月の台風により被災し解体を余儀なくされたため、令和元年度から改築工事が開始されました。道産木材利用推進ため、CLTパネル工法で建設され、壁、屋根にCLT(十勝産カラマツ)を使用した避難小屋としては、全道初のものとなりました。

そのほか、床、羽目板等に道産カラマツをはじめとしてトドマツ、スギ材が使用され、赤みを帯びたカラマツが色鮮やかであり、深みのある木の香りとともに訪れた登山者の疲れを癒やし、安らぎを与えるものとなっています。

登山に興味のある方、ぜひその目でCLT避難小屋をご覧ください。はいかがでしょうか?

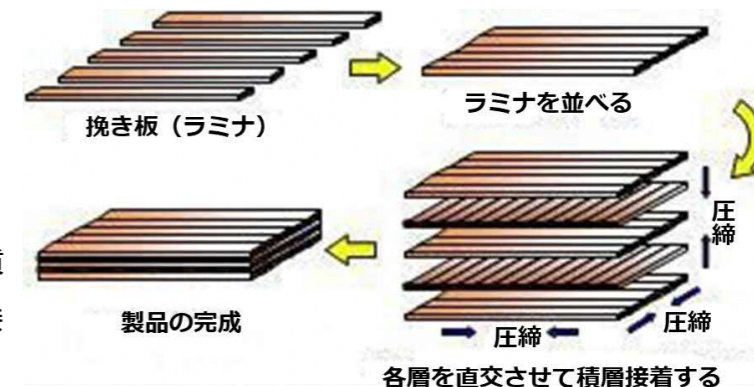


図 CLT製造の流れ



山頂付近に建つ避難小屋



避難小屋外観



避難小屋内部